

市仏連会報

発行所
 横浜市中区大平町96
 光明山西有寺内
 横浜市仏教連合会
 電話 045(661)0166

明るい未来を而今に

横浜市仏教連合会会長 横山 敏明

月日は百代の過客にして云々のことばではないが、今年も恒例の涅槃会が終わったと思つたら、早や四月も半ばとなり、桜前線も遠く東北の山野に移り、ここ横浜の桜は、葉ざくらとなつてしまひました。暑い夏も間もなくといった今日此頃でございます。私も皆さまのお助けをいただいて二年の任期を迎えようとしています。消費税5%は、何とか上向こうとする私達の気持を暗くしますが、これもまた戦後五十年を精算する一つの道程であるならば、耐えてゆかねばならぬことかといひ聞かせておる昨今でもあります。

心の時代、宗教の時代といわれ随分と久しい気がします、与えられるものをあてにしているようでは、いつまでたつても、その時代はやつて参りません。いつの場合でもそうですが、自分からその時代の扉を開かねば、決して参りません。しかし、積極的に開こうとする人達と、消極的に申しますか、おかれてついでにしようとする人達が、常に混在しているという事実は否めません。この間のかね合いが私達宗教に携わっているものにとつて難かしいところかなと存じます。今時、人権、平和、環境が合言葉の様に紙上におどつておりますが、何か大きなことがおきるとポランテアとい



うことばがしきりにいわれます。VOLUNTEER、志願者、有志の意味ですが、篤志奉仕者、民間奉仕者のことで、自発的に障害者、老人に対する奉仕や児童教育などの社会福祉活動を行う人々とありますが、日本では貧困な国の

福祉事業や地域の福祉推進に非常な力を発揮しております。しかし新聞等の論調から見ますと、始めにポランテア活動ありきといった感が強く思われます。ポランテアに期待しすぎといつても過言ではないといつて良いと思われま

す。国や地方行政が真つ先に動き、人を動かし、全ての能力を出しきる姿勢がまことに希薄であるといわざるを得ない。規則や悪しき習慣にとつぱりとなつて、口先ば

かりが横行して、結果の良いところを行政がとつていくといった風潮があります。人々に対する行政が本来、人々のためのものであり、行政にたづさわる人は、全体の奉仕者であるという基本の初歩を閉却しているのではないかと考えられます。信念（人々に対する愛ある行為を第一義的に考え行動する信念）と哲学が欠除しているとか考えられないのであります。このことがまた私達、宗教に関わっている者が心していかなければならぬ点でもあります。それぞれの視野の信仰と教え、その行動を私達が自らのものとして日常に具体化していくことこそが、心の時代、未来を開く第一歩であり、宗教者としての本来の姿、究極の目的でもあらうと存するのであります。さまざまな社会的制約がありますがぶつかる石も、冷たい激流もまた良しといった不転転の決定が求められているのではないのでしょうか。

改正宗教学法の実施初年度の今年、横浜市仏教連合会にとつても重要な節目の年になるのではないかと考えられます。会員のみならず意見の交換をし、釈尊奉讃会のみならず皆さまのご協力を得て、誤りなく歩んで参りたいと念じております。五月末で現役員は任期満了となりますが、みなさま方のご助言、ご教導を得て、地域社会ひいては世界の平和と人心の安寧に寄与して参り、関係各位の安心立命、生活の基本となる、おかげさまで世界具現に一同心をつくして参ります。

市仏連役員名簿

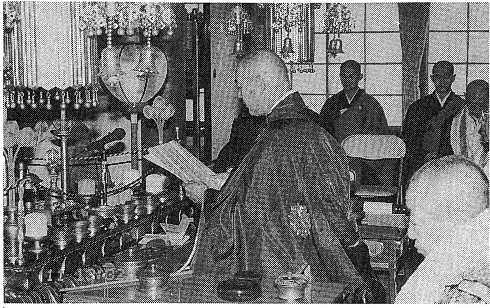
| | |
|------------|-------|
| 名誉会長 | 成田芳髓 |
| 顧問 | 志村慎吾 |
| 顧問 | 柳下隆侃 |
| 顧問 | 森山正城 |
| 顧問 | 滝川覚道 |
| 参与 | 福永隆昭 |
| 会長 | 横山敏明 |
| 副会長・会報編集指導 | 玄野孝善 |
| 副会長・専務理事 | 川上敬吾 |
| 事務担当理事 | 林田真成 |
| 会計 | 橋下賢明 |
| 税務委員長 | 斎藤隆法 |
| 会報担当 | 備前恭忍 |
| 会報担当 | 関水俊道 |
| 幹事 | 野沢隆幸 |
| 幹事 | 内野公雄 |
| 他役員 | 常務各理事 |
| 顧問弁護士 | 遠藤隆也 |

第二十二回涅槃会厳修

市仏連主催の釈尊涅槃会を平成九年二月十一日(火)に営んだ。当番は磯子区仏教会(会長・鷲尾興勝師)、会処は磯子区坂下町四十九の高野山真言宗海照寺様(滝川覚道住職)であった。

当日は晴のち曇り、時にパラッと雪片まじりの霏雨模様。しかし、直ぐに天候回復し、晴れるという一日であった。僧侶三〇名に檀信徒八〇名余の総計一一〇名ほどの参詣者があった。

海照寺様は泉久山と号し、本尊は地藏菩薩の立像である。山門の脇から境内に入ると、正面に大きな本堂、左に新築の客殿、庫裡が建ち、右から本堂の後背山にかけて墓地があり、万霊供養塔も祀られている。本堂内に掛けられた涅槃図は約五、六百年も昔のもので、



滋賀県の琵琶湖の湖北地方の真言律院の持物と伝わる立派な絵画である。外陣は長椅子が置かれ、足のしびれ、苦痛を心配しなくても長時間の法要、法話に参列できた。午後一時半入堂の半鐘が打たれ、

横浜市仏教連合会副会長の玄野孝善大道師を中心とした磯子区仏の各師式衆の僧列一行が道場に入る。川上市仏連副会長が開式の言葉をのべ法要となる。一同三礼、三帰依文唱和、玄野大導師敬白文奉読、

観音経普門品偈唱和・参列者御焼香、舍利札文三唱、回向文独唱・鷲尾磯子区仏会長、普回向誦誦唱和、式衆一同退堂。一時五〇分頃であった。二時から式典。市仏連会長挨拶(玄野孝善師)。県仏会(斎藤隆法副会長)祝辞「千載一遇の好機の仏縁を新たに、一期一会のご縁を大切に」と釈尊涅槃会をとらえて聴聞下さい。市釈尊奉賛会(程木徳明事務局長。当番区磯子区仏教会会長挨拶(鷲尾興勝師)「インドの釈尊の聖地に足を運んだ時におシヤカ様を身近に感じた。ゆかりの祖師方の聖地に跡を訪ね、身を置くことを勧めます」。

会処の海照寺住職の挨拶(滝川覚道前市仏連会長「愛のこもった人間になりたい、お互い仲良くふれあつてくらしたい。湖北の律院蔵の涅槃図が当寺に伝わったもの。本日の講師は元高野山大学学長、日本密教学会の理事長の松長有慶僧正で実践の学...」)。心の糧に

なるお話をしてくださいませ。午後二時二〇分頃から三時十五分くらいまで、「おねはんについて」と題しての松長有慶先生の法話を拝聴した。川上敬吾市仏連副会長が閉式のことばを申した。三色ねはん串団子や紙財布などの供物を配った。皆さま、実にいい顔をして帰られたのが印象に残ったそれから客殿で反省会の清宴を持ち四時半すぎに解散した。



涅槃会記念法話

「おねはんについて」

松長有慶師

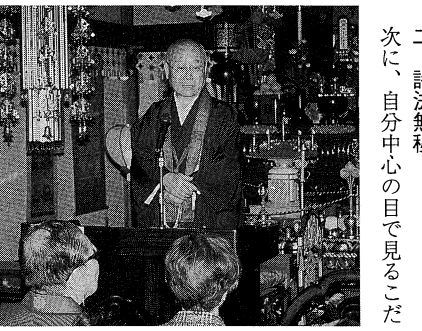
お涅槃像は、お釈迦様が亡くなられた時に、そのご人格を慕われ動物も植物も集う臨終の儀を絵にしたものですが、悲しみの中にもどこか心あたたまるものでございます。「お涅槃」とは、ただお釈迦様が亡くなられたということだけでなく、お悟りの中に入られたという意味があるのです。お釈迦様の悟られた中心の教えに三法印があります。

一、諸行無常
この世の中にあるものは、一つの姿として留まるものはありません。ある一瞬にこだわっていると

磯子区仏教会の会長をはじめ各寺院各師、海照寺住職、副住職、師族、世話役の方々は慈愛あふれる配慮、接待をいただき、心より御礼を申し上げます。その他、関係者一同、各区仏の会長、諸役、釈尊奉賛会、参詣の皆様にも感謝申し上げます。ありがとうございます。次回は神奈川県仏教会が担当となります。宜しくお願い致します。

移り変わる現実を見失ってしまいます。このことをしっかりとお腹の中に受けとめることが大切であるということですよ。

二、諸法無秘
次に、自分中心の目で見ること



わりをなくすということです。ある宇宙飛行士と話をしたことがありますが、宇宙に出ると、肉体的にも精神的にも正しいと思つてに固定観念を離れて、小さなことにこだわっていた自分に気づくそうです。そして、地球と自分と同じ生命でつながっていることに感動を覚えたということです。一番大事だと思つている自分を宇宙から見ると、なんとちっぽけなものであるということをお釈迦様は見抜かれていられたのです。

三、一切皆苦
一切が苦であるというと、悲観的な感じがしますが、決してそうではありません。お釈迦様のおっしゃった苦とは、肉体的な苦しみではなく、四苦八苦と言うように生老病死などの、自分の思い通りにならないすべてのことが苦であると説くのです。そして、思い通りにならないばかりか、誰も助けられない世の中の現実を正しく見据えて、自分自身で乗り越えていかなければなりませんよと、おっしゃっているのです。

この三つの法印をもとに、日常生活の中で正しい道を行っていきなさいということですが、この現実の教えとして「涅槃寂靜」ということが出てきます。これを入れて四法印とも言います。

四、涅槃寂靜
自分自身の苦の元をさぐれば、「渴愛」が原因であると言われます。仏教でいう愛とは、欲望に執着することです。涅槃とは、この思い通りにしたいという欲望のこ

わりのこ

「一切衆生」と言うように、生
 だわりを流してしまおうというこ
 です。が、生きていく以上、欲望
 から抜け出すことはできません。
 こだわりの中であつてこだわりか
 ら抜け出ることが涅槃の本当の意
 味なのです。お釈迦様は、自分が
 現実から抜け出せるのではなく、生
 きとし生けるものをどのように救
 うかということ、自分自身の問
 題としてお考えになられました。



「一切衆生」と言うように、生
 きとし生けるものは皆、つながり
 合つて生きています。このような
 大きな絆で相手の立場を考えなが
 ら生きていくことこそ大切なこと
 です。

涅槃ということばの原語は、ニ
 ルバーナといい、煩惱の灯明をふ
 っと吹き消したあとの静寂を差し
 ます。高野山では、涅槃会のこと
 を常楽会といい、お悟りの大きな

秋の奉讃会参拝旅行 湖北・小浜・京都を訪ねて

昨年秋の旅行は、京の都をめぐ
 る熾烈な戦いの舞台となつた琵琶
 湖周辺と、大陸との交易の玄関と
 もなつた小浜を訪ねて、十月二十
 九日～三十一日に行われました。

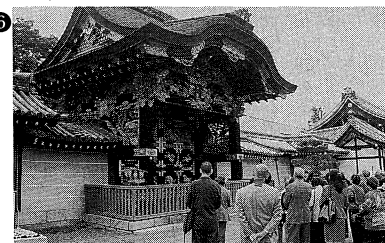
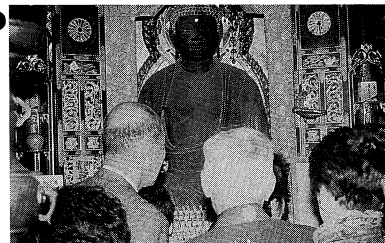
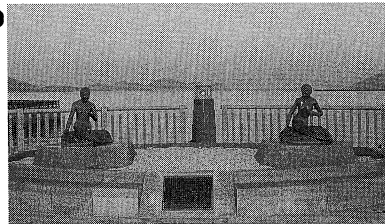
NHKドラマ『秀吉』の影響で、
 長浜は、大通寺を中心に秀吉博覧
 会一色でした。町並からは、往時
 の商業の町を感じさせてくれます。
 渡岸寺の国宝十一面観音は、質素
 なたたずまいの中にも、圧倒させ
 られる優しさあふれる美しさがあ
 りましたが、この地は、戦乱の地
 となつた小谷城近くでもあります。

小浜への途中、三方五湖を見下
 す山上からのパノラマは正に絶景
 でした。小浜は、秘仏の宝庫とも
 言われ、すばらしい建造物や仏像
 があります。二日目の朝、一番で
 訪れた妙楽寺は、行基作と言われ
 る千手観音像を安置し、苔むした
 ひっそりとした参道が、清々しさ
 をかもし出してくれました。三重
 塔の美しい明通寺、美人の像で名
 高い羽賀寺の十一面観音様は、正

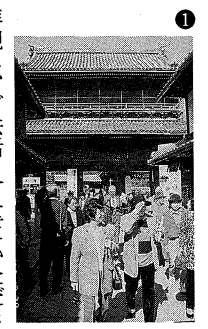
境地へ入られたと考えています。
 ですから、一切皆苦でなく一切常
 楽の世界が実現している訳です。
 お釈迦様の命は八十年ではなく、
 宇宙的な大きな命は二千六百年経
 った今でも輝いています。

今日は、どうかお釈迦様のお涅
 槃に因みまして、宇宙飛行士のよ
 うな大きな気持ちになつてお帰
 り下さい。

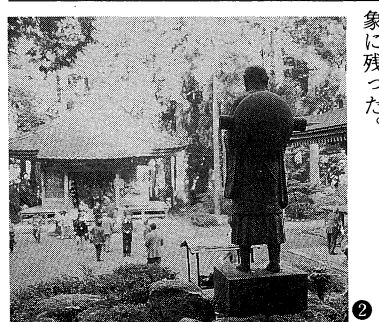
に隠れた宝物とも言えましよう。
 これらの文化的資産を、大切に現
 在まで伝えてこられた方々のお心
 に改めて一同、感動を覚えた次第
 です。若狭の美しい仏像を後に、
 再度琵琶湖の対岸を通り、雄琴温
 泉に泊。三日目は、比叡山へと足
 を進めました。紅葉には少し早い
 時期のこの度の旅行でしたが、こ
 こ比叡山は真盛で、美しい赤や黄
 の葉が目にも染みしました。東塔、西
 塔、横川と、ゆつくりと各道場を



この度は、奉讃会、仏教会なら
 ではの参拝旅行とも言えるすばら
 しい催しとなりました。参加者は
 六十四名。参加寺院は次の通りで
 す。
 東照寺、保福寺、松蔭寺、徳善寺
 善昌寺、妙光寺、海照寺、西有寺
 勝国寺、長昌寺、西福寺、東泉寺
 参加者の声



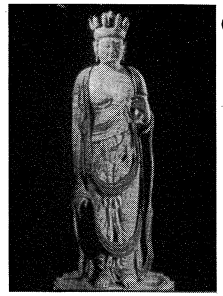
参拝し、ご法話も丁寧にいただき
 ました。
 今日のすばらしい文化と自然の
 旅の仕上げにふさわしく、最後に
 西本願寺を訪ねました。横山市仏
 連会長のご尽力により、普段は非
 公開の飛雲閣、書院の国宝建造物
 を特別に拝観させていただきました。
 華麗な曲線美はさすがに、桃
 山時代の優美さをかんじさせてく
 れました。



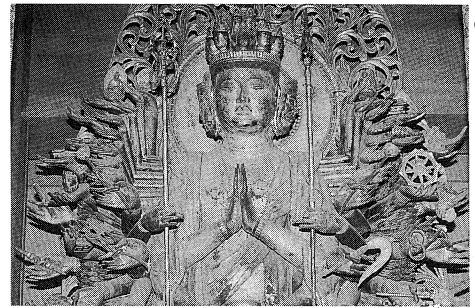
◎今回は特に充実していた。羽賀
 寺の美人像はひきしまった顔で、
 宝石による彩色が美しかった。
 ◎仏教会・奉讃会の旅行は、普通
 では見れない所が、ゆつくりと説
 明を聞きながら見れるのでよい。
 ◎布教の一つとし、大変有意義で
 あつた。もう少し、各寺院、関心
 を持つて呼びかけていただき、こ
 のような感動を多くの人に供与し
 てあげたい。
 ◎小浜の各寺は、静寂なたたずま
 いで、すばりしかった。階段が多
 く大変だったが、苦勞するだけ印
 象に残つた。



梅岳より三方五湖を望む



7

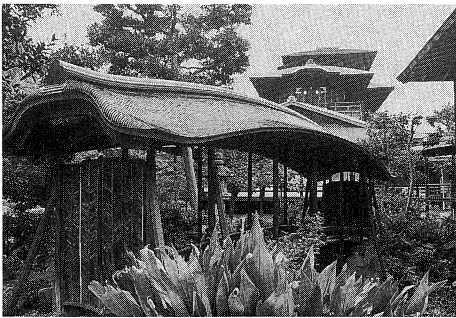


8

参拝旅行、その他の場を通じて目にした標語、揭示語をご紹介します。

大通寺にて

- 人生はやり直すことができない。しかし、見直す事はできる。
- 明日ありと思う心のあだ桜、夜半に風の吹かぬものかな。
- 生のみが、われにあらざり、死もまたわれらなり。
- 他人の悪口はいつでも面白いが、自分の悪口は本当でも腹が立つ
- 明日があるからと思う心が、今日を無意味に過ごさせている。
- 私が笑うと鏡も笑う、怒った顔すりゃ鏡も怒る、この世はすべて私の心の鏡だ。
- ある ある ある みんなある さわやかな 秋の朝。
- 人生は長さではない、深さである。
- 電車に乗るとき『我やさき』、死んでいくとき『人やさき』。



平成七年豊山宝曆より

9

話 材 紹 介

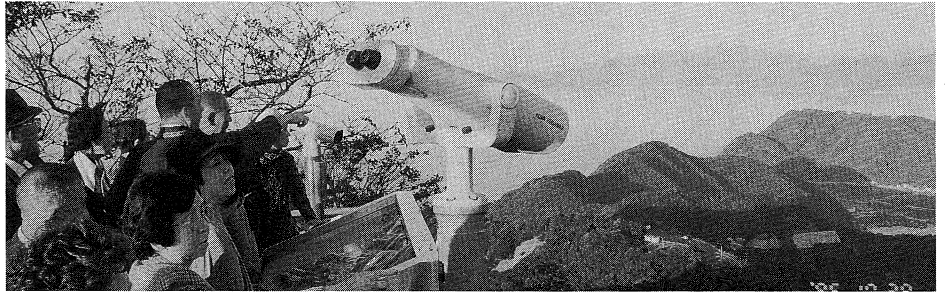
愚かにも、我れ反抗す、大いなる御手に

- 失敗しないのが偉いのではない、失敗しても再び立ち上がる人が偉いのである。
- 『有難う』『すみません』『ご苦労さま』、この三つを多く言う人に行き詰まりはない。
- 一隅を照らす、これ則ち、国宝なり。(延暦寺)
- 生きることはすばらしい。しかし、いつまでも生きられないことを知った時、それは更にすばらしい。(港南区浄土真宗東福寺)
- 自分がたよれるものは自分だけ、その自分がたよれるものは仏だけ。
- 今年こそ 今年こそはと 今年こそ
- いだから、ありとも知らず、

- 美しい日は美しい夜となり
- 鉄拳の指をほどけば何もなし
- 俺に似よ俺に似るなと子を思い
- いつまでの鈴振る指か沙羅双樹
- やがて散る花なり芥子のほろほると。
- 川底に耐へてるダルマ石ひとつ
- 思い出となれば憎めぬ人ばかり
- 一日の無事、行水の音となる。
- 命日の朝を花屋で話し込み。
- 何一つ持たぬ両手を合わせられ
- マッチ擦って、わづかに闇を慰めぬ。
- 熱い茶に朝の寒さを掌で囲み。
- 自分のわがままは当たり前と思
- 他人のわがままは許せないと思
- 尊いのは頭でなく、足の裏である。

- 美しき一人を楽しむ。
- 始めて遭ったときは知人、二度目に会ったら友人、三度目に会ったら、もう、家族。
- 仏を拝み、ご先祖をおがみ、人をおがみ、自己をおがむ。
- 親が拝めば子も拝む、拝む姿の美しさ。
- 合掌と感謝の心を子に孫に。
- 手を合わす親の姿に子が学び。
- 目で見せて、耳で聞かせて、して見せて、やらせて見せて、ほめて教えよ。
- 明るく(仏)、正しく(法)、仲よく(僧)。
- 生かされている事が最大の御利益です。
- 私の心、常に仏と一体、いつも見ている仏の眼、今日も守つてくださる仏様、きれいな心で仏壇掃除。
- 清掃、これ、仏なり。
- 隠してよいのは、自分の善事である。
- 施して報いを願わず、受けて恩を忘れず。
- 迷えるを衆生と名づけ、覚れるを諸仏と名づく。
- 日出でて月没し、油尽きて燈滅するは物の常なり。
- 極楽は、西にあれども、東にも、北道さがせ、南にぞある。
- 豊かな収穫は、日々の感謝から
- 感謝の気持のない者は人でも物でも粗末に扱う。
- 苦難を経て、はじめて真の友を知る。
- 日々是好日、和顔、愛語。
- 平常心、是れ道、春、百花あり

- ①長浜、大通寺の秀吉祭り
- ②妙楽寺境内
- ③小浜、人魚の像
- ④明通寺、薬師如来像
- ⑤延暦寺前
- ⑥西本願寺、唐門
- ⑦羽賀寺、十一面観音像
- ⑧妙楽寺、十一面観音像
- ⑨西本願寺、飛雲閣



秋、月あり。夏、涼風あり。冬、雪あり。
 ○親の恩、歯が抜けてから、かみしめる。
 ○小さな親切が、大きな感謝を生む。
 ○「長寿十訓」少食・多嚙、小欲・多施。
 ○「長寿十訓」少驚・多眠、少噴・多笑。
 ○「長寿十訓」少車・多歩、少言・多行。
 ○「長寿十訓」少糖・多果、少衣・多浴。
 ○「長寿十訓」少肉・多菜、少塩・多酢。
 ○子は親の言う通りにならない、親のする通りにする。
 ○美しい心、美しいふれあい。
 ○来る者は拒まず、さる者は追わず、対すれば和す。
 ○仏道に入る根本は、真を以て本とする。
 ○千里の道も一歩より。
 ○良薬は口に苦し、忠言は耳に痛い。
 ○今を大切に生きる、一日を大切に生きる、一生を大切に生きる。
 ○よき母は、百人の教師よりも勝る。
 ○思いがたつたが吉日、思案だけでは、何も生まない。
 ○人は一代、名は末代。
 小浜「箸匠せいわ」の葉より
 「人のふりみて、我がふりまねせ」
 チョットおかしいですネ。
 「人のふりみて、我がふりなおせ」が本当。
 でも、これは他人の悪い所を見

ています。そして、なかなか直すことなく、悪口だけで終ってしまっています。
 「人のふりみて、我がふりまねせ」真似ができなくても、良い所を見てほしいものでネ。
 ○よいとこさがしは友達づくり。
 ○よいとこさがしは幸福さがし。
 ○母がいるから、お世話ができる。
 お世話ができることに、感謝。



支部だより

栄 区

新区の誕生に伴い、戸塚区仏教会から独立して、ちょうど八年が過ぎました。十四ヶ寺の小さな会ですが、本報第四十一号に会長が概略を述べました通り、阪神淡路島大震災の義援金勸募を一年以上続け、頑張っております。
 平成七年度の総会を四月十一日長光寺で開き、義援金勸募について全会一致で可決し、十九日から実施しました。場所は本郷台駅前



で、終始替わりません。募金日は二回目以降、大震災のあった毎月十七日とし、時間は午後三時から五時までの二時間とし、現在も続けております。毎回の設営にあたっては、特に山本葬儀社と長光寺のお世話になっていきます。募金の寄託先については、地元の新報社というところで、神奈川新聞社の厚生文化事業団に決めました。毎月会長自ら集計し、郵便振替で同事業団へ送金し、寄託欄に掲載されることをもって応募者への報告とし、各寺へは集計額と寄託先をその都度報告し、次の募金への協力を呼びかけています。
 このことが七月十八日の「神奈川新聞」に取り上げられました。被災地へ届ける「功德」、阪神大震災から半年、街頭募金を継続、本郷台駅前で栄区仏教会、という見出しで写真入りの報道でした。
 平成八年度の総会を五月十七日に證菩提寺で開き、募金の報告をしました。前述の四月から八年の

四月の間に、十回の勸募ができて募金額の合計は、八十万三千七百二十九円でした。そこで勸募の継続について話し合い、ぜひ続けようという会長の発言で、少なくとも被災者の三回忌に当たる九年の一月まで続けよう、と決めました。
 六月から、その一月までは毎月できて、一月までの募金額は五十二万四千六百五十七円でした。寄託額の総計は百三十二万八千三百八十六円になりました。

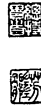
金 沢 区

平成八年十月十九日 午後二時
 交通事故物故者追悼会並びに交通安全祈願会 出仕十三ヶ寺(主任伝心寺) 於伝心寺
 十一月八日 県成道会 会長出席 於西有寺
 十一月三十日 午後三時
 税務研修会 於富岡持明院
 講師・細渕慎一税理士、「宗教法人の税務事務」十五ヶ寺出席(主任持明院)
 十二月八日区仏理事會 於金沢園
 平成九年一月一日 教化新聞「慈光」発行(主任染王寺)
 一月十日 午後四時 区仏新年会 十九ヶ寺出席 於金沢園
 一月二十二日、二十三日 区釈尊奉讃会の千葉眞鏡子方面へ新春参拝旅行 七十八名参加 バス二台
 二月十五日 午前十時半 区仏涅槃會 於寺前染王寺
 十三ヶ寺出仕
 二月二十七日 午後四時 花まつり臨時總會 於壽司亀十八ヶ寺出席

祈法愛

茶友

長谷川 九一



横浜市仏教連合会会計
浄土宗浄念寺住職

橋 下 賢 明

〒233 港南区野庭町一八四三
電話 八四二一七二八八



横浜市釈尊奉讃会事務局長
港北区仏教会長
曹洞宗東照寺住職

程 木 徳 明

〒223 港北区綱島西一十三一十五
電話 五三一 一七八三



横浜市仏教連合会常務理事
磯子区仏教会長
高野山真言宗大聖院住職

鷲 雄 興 勝

〒235 磯子区東町六一二〇
電話 七五一 〇六七二

横浜市仏教連合会会長
曹洞宗西有寺住職

横 山 敏 明

〒231 中区 大平町 九六
〒電話 六六一〇一六六

横浜市仏教連合会顧問
臨濟宗建長寺派金龍院閑栖

志 村 慎 吾

〒236 金沢区 瀬戸 十一十二
〒電話 七〇一八八二三

横浜市仏教連合会常務理事
神奈川県仏教会長
曹洞宗本覚寺住職

守 長 尚 文

〒221 神奈川区 高島台 二一二
〒電話 三三二一〇一九一

横浜市仏教連合会幹事
真言宗智山派正泉寺住職

野 沢 隆 幸

〒230 鶴見区 生麦 四一三十一一四
〒電話 五一一一五一七五

横浜市仏教連合会副会長兼専務理事
臨濟宗建長寺派松蔭寺住職

川 上 敬 吾

〒230 鶴見区 東寺尾 二一八一一
〒電話 五七一七一七〇一

横浜市仏教連合会副会長
保土ヶ谷旭区仏教会長
曹洞宗長昌寺住職

玄 野 孝 善

〒241 旭区 さちが丘 五九九
〒電話 三九一一一三七九

横浜市仏教連合会御用達
東海ビーエス観光株式会社社長

真 川 明

〒240 保土ヶ谷区 西久保町 二一四
〒 公園ハイツ 二一一一八
電話 三三四一三四〇〇

横浜市仏教連合会顧問弁護士

遠 藤 隆 也

〒221 (自) 宅 神奈川区 白幡上町 一八四
〒110 (事務所) 台東区 東上野 二一八七七
電話 〇三三八三二二二八一九

横浜市仏教連合会常務理事
臨濟宗円覚寺派長福寺住職

橋 本 良 修

〒245 泉区 和泉町 三六五九
〒電話 八〇二一三二四〇

横浜市仏教連合会会報担当
真言宗豊山派西福寺住職

備 前 恭 忍

〒246 瀬谷区 橋戸 三一二一一二
〒電話 三〇一一六一三四

横浜市仏教連合会会報担当
曹洞宗東泉寺副住職

関 水 俊 道

〒245 泉区 下飯田町 七四三
〒電話 八〇二一八〇九七

横浜市仏教連合会常務理事
瀬谷区仏教会長
浄土真宗大谷派最勝寺住職

柳 沢 柳 丸

〒246 瀬谷区 二ツ橋町 三三七一一
〒電話 三六二一六〇七二

瀬谷区

十一月二十二日、当仏教会では例年のように、歳末助け合い基金を瀬谷区役所に寄託。又、寶蔵寺住職、青木大憲師も自坊の一年間のお賽銭を一緒に寄託した。

十二月十三日、忘年会、一月十六日、新年会、共に親睦と情報交換をはかる。一月二十五日、副会長青木大憲師の奥様、恵子さんがご逝去され、一月三十日に自坊で葬儀告別式が厳修されました。行年五十五歳でした。謹んで哀悼の意を表します。 合掌

年末年始には、瀬谷八福神が、テレビ、新聞で報道され、大勢の善男善女の参拝者で賑わいました。ダルマ大師の長天寺、大黒尊天の妙光寺、恵比寿神の善昌寺、毘沙門天の徳善寺、弁財天の寶蔵寺、布袋尊の西福寺、福祿寿の宗川寺、そして寿老人の全通院勢至堂、以上八福神各寺の全行程は十キロメートル位、徒歩でも一日あると充分参拝出来ます。次回から八福神の各寺を紹介します。

保土ヶ谷 旭区

平成八年度下半期の行事は左記の通りです。

十一月 八日 県仏教会主催の釈尊成道会が西有寺で催され当仏教会より会長が出席した。

十一月十五日 恒例の秋の仏跡参拝旅行が催された。晴天に恵まれバス三台で一二〇名が参加、栃木県益子町の真言宗西明寺に参拝うつそうとした木立の寺で靈気がただよっているようである。帰りに益子焼のお土産を買入し帰路につ

保土ヶ谷区・旭区

思い出



於 益子町西明寺

いた。西明寺門前での記念写真を一枚のせました。十二月六日 釈尊成道会を旭区鶴ヶ峰本町の薬王院にて修行い

たしました。晴天にめぐまれ善男善女約百五十名が集い、午前十時から法要、引き続きて当仏にひろわれて」と題し師子鬘んやさんの講演があり、笑いの中にも人生の送りかたについて勉強をした。十二月十九日 寒さも一段と身にしみる中、恒例の托鉢をJR保土ヶ谷、相鉄線天王町、希望ヶ丘の各駅で修行し、その浄財三十万円余りを神奈川新聞社厚生事業部に送り年末助け合い運動の一端として活躍した。

十二月二十日 会長、長昌寺さんにて役員会を開催した。一月二十八日 恒例の新年会を中華街重慶飯店で開催、新年を祝った。

二月十四日 会長 長昌寺さんにて役員会を開催。特に花まつり行事の運営について相談をまとめ、主に講師は曹洞宗布教師関水俊道老師を選定した。

事務日誌

- 8 11 0 常務理事会 理事会開催 案内
- 8 11 20 磯子区仏 市仏役員涅槃会打合せ会 於宝積寺
- 8 11 26 奉讃会巡拝旅行反省会 於四川飯店
- 8 12 2 理事会、常務理事会 於筑業
- 9 1 10 涅槃会案内状配布願
- 9 1 10 涅槃会随喜依頼案内
- 9 1 10 涅槃会講師依頼
- 9 2 4 磯子区仏 市仏涅槃会第二次打合せ 於海照寺
- 9 2 5 会報原稿依頼

お知らせ

第十三回市仏連の春の参拝旅行 平成九年六月四日(水) 友引日 帰りバス旅行、雨天決行 千葉県方面、坂東観音札所の二十七番円福寺(犬吠崎観音)へのお参りを企画しました。

費用は八六〇〇円也です。参加者は会費を添えて各菩提寺へ申し込んでください。各寺院は区仏の会長まで。区仏の会長は市仏連の川上副会長まで人数を報告下さるようお願いします。

川上敬吾・松蔭寺 電話五七一七〇一 ビーエス観光・三三四一三四〇〇 平成九年度総会開催 於西有寺 平成九年五月二十三日(金) 友引午後一時より理事会・常任理事会 午後二時より第二十三回横浜市仏教連合会総会。多勢の会員の出席を期待します。

県慰霊堂奉仕当番

- 9 4 7 神奈川区仏教会
- 9 6 5 西区仏教会
- 9 10 6 磯子区仏教会
- 9 11 5 港北区仏教会
- 10 1 5 金沢区仏教会

訃報

奈良光雄・西区洪福寺住職が平成八年十月二十七日に遷化されました。八十年十一月に遷化した。心筋梗塞、享年五十六歳。臨済宗建長寺派僧侶、森山、滝山、横山の市仏連会長時代に約五年間にわたり、市仏連墓地委員長を務められました。洪福寺後任は川上敬吾師が兼務住職となられた。 合掌

編集後記

市仏連として長年お世話になった西有寺、横山敏明会長が今期をもって引退する事となり、我々さびしいかぎりである。しかし、会長の要望により新しく、困った事相談室を次年度より設ける運びとなった。これにより市内各寺院の税務問題、墓地問題等の困った事が早く解決できる事となるだろう。

二月十一日は釈尊涅槃会が、磯子区仏教会の当番で、海照寺本堂で盛会に終了した。

市仏連役員改選に当り選考委員会が発足した。メンバーは、鶴見区宝泉寺横溝晃信師、南区興禅寺市川智淋師、中区東福院上柳毅明師、港北区東照寺程木徳明師、西区勤行寺都筑哲信師により新役員が選考される。六月四日に仏跡参拝旅行が催される。今回は千葉県の銚子をたづねて、満願寺、円福寺の参拝そして銚子港で上った新鮮な魚類のお土産が人気を呼びそうです。